

山行報告

諭鶴羽山 ～ 灘水仙郷めぐり (女性委員会主催)

日 時：1月17日(日) 参加者数：19名

参加者：A班—L：尾内 SL：西村(知) B班—L：澤田(律) SL：待場

A班：足立(美)・大谷・尾越・金島・狩集・河合(由)・北川・切貫

B班：佐藤・砂川(美)・高橋・開・藤原・巻藁・森永

行動記録：高砂駅7：30～宝殿駅7：45～明石海峡大橋8：45諭鶴羽ダム
9：27—9：45～諭鶴羽山山頂11：16～諭鶴羽神社11：30—
12：30～平和記念塔12：38～諭鶴羽大権現13：35～灘黒岩水仙郷1
4：00—14：45～松帆の郷16：00—17：00～淡路SA
17：25—17：45～宝殿駅18：00～高砂駅18：20

★ 諭鶴羽山から水仙郷へ

藤原(千)



数年前に、諭鶴羽山の交流山行があったが都合で参加できず、いい所だと聞いており、いつか行ってみたいと思っていた。

このたび運よく、実現となり嬉しい。

朝、まだ日の出前、東の空を見ると空がオレンジ色で雲ひとつない。今日はいい天気になりそうだ。バスに乗り、おしゃべりに夢中になっている間に、はや登り口のサイクリング・ターミナルに到着。

登山準備をし、2班に分かれて出発。諭鶴羽ダムの堰堤を通りダムサイトの急な階段から山へ入って行く。頂上まで2700mの看板がある。よく手入れされた杉林の中、最初から急登に迎えられる。登りきると視界が開け、植林から自然林に変わり、黒い小さな実をつけたヤマビワが目につく。尾根道は歩きやすく、先ほどの諭鶴羽ダムが、木々の間から見える。

しばらくすると神倉(かんのくら)神社の前に出た。神代の時代、諭鶴羽神(イザナ・イザナミの神)の乗られた鶴が、ここの大樹で羽を休まれたという、由緒ある場所であるらしい。その木は、定かでないが大きなマキが茂っていた。

道の両側には、青々としたシダやシキミ、シャシャキが多い。やはり淡路島は暖かいのかなと思いきや、頂上に近づくにつれ雪が、あちこちに残っていた。現地の人の話では、4日程前の寒波で降雪があったそうである。頂上には一等三角点があり、小広い台地になっていて、西には、鳴門大橋が近くに見えて見晴らしがいい。

10分程歩くと諭鶴羽神社に到着。名前の由来となったユズリハが植えてあった。

境内に、お神酒と紙コップが置いてあり、自由に頂いていいらしい。

お賽銭では足が出そうだが、ちょっと一口、にんまりする。ここで昼食を摂り、美味しい差し入れが、次々まわってきたこともあり、お腹が充実した。

下りは、落ち葉がある急傾斜の道で、滑らないように注意して歩く。日当たりのよい場



所には、黄色の菊か、ニガナに似た小さなかawaii花が群れて咲いていた。「こちらから登ると標高差も大きく、大変だろう。」などと話す。

坂の下に海が見えてくると、まもなく黒岩集落に着く。海岸沿いの道を水仙郷へと歩く。

波がなく穏やかな海に、沼島が浮かんでいる。ぽかぽか陽気でとても気持ちがいい。シーズン中とあって、車も人も多い。

黒岩水仙郷は、7haの急斜面に約500万本ともいわれる水仙が咲いている。昔、黒岩の海岸に水仙の球根が漂着し、自生していたのを、村人が山へ移植したものが、現在の水仙郷になったと言われている。

いい香りが漂っているのかと思っていたが、時期がちょっと早いのか、花に近づかないと匂わなかった。

斜面を見上げると、花がとても美しい。

また見下ろすと、海の青さと水仙の白と黄とグリーン、コントラストのいい見事な眺めに感動した。

その後、美湯「松帆の郷」のお風呂につかりながら、明石海峡大橋を眺め、今日は素敵な一日が過ごせたなあと考えた。

きびしい寒さの中にあって、こんな暖かい木漏れ日のハイクが楽しめたこと、リーダーさんや、お世話くださった方々に、感謝いたします。



久しぶりの山行

尾越

今回ほど、楽しみに待っていた山行は、今までなかったように思います。

12月1日に右足親指を骨折したため、山遊会の初めての納山会も断念、自主トレも、高御位清掃登山も、すべて諦めて休み、1月になればと楽しみにしていました。

淡路島の最高峰、諭鶴羽山は樹林がトンネルとなったなだらかな道が多く、登るにつれ薄っすらと雪が残り、清々しい気持ちで歩くことが出来ました。

灘黒岩の水仙郷は、ポカポカと暖かく、目の前の青い海と、水仙の甘い香りとで、もう春が来たようでした。久しぶりの山行に、諭鶴羽山は期待以上で、それに信頼のおける仲間と一緒に、楽しさも倍増し、初めてリーダーをされた澤田さんは色々のご苦労があったと思いますが、お陰様で楽しい山行になりました。ありがとうございました。

山崎宮山 (宍粟 50 山)

日 時：1月24日(日) 参加者数：17名

参加者：A班—L：大瀬 B班—L：上田

A班：井上・狩集・北川・澤田(律)・竹内・関・増田・山本

B班：金島・河合(由)・切貫・清水・長谷川(孝)・森川・渡邊(俊)

行動記録：宝殿8：37～山崎道の駅9：25—9：35～よいたいトンネル9：45—9：55～(459m)ピーク10：55—11：05～宮山山頂11：40—12：20～野口神社13：05—13：25～(R29)下山口13：35—13：45～伊沢の湯13：55—15：00～宝殿15：50

★ 宍粟 50 山 宮山(山崎町)

河合(由)

春の訪れが早くなりそうだとニュースで言っていたが、今日の暖かさには戸惑う。

18名を乗せ、バスは8：30宝殿をあとに宍粟市山崎町に向かう。いつものように集金が終わり落ち着いたところ---、思いがけないことだった---「会計報告をいたします。」という会計の

言葉に、皆一様に驚きが走る。詳細のあと「入浴は個人払いです。」と切貫さん方式の収支報告があった。ご苦労さまです。

山に気持ちを切り替えていると、よいたいトンネルが視野に入る。バスと別れ、駐車場でストレッチをして9:55出発。すぐそばの宮山登山口の案内柱から、緩やかな上りが続く尾根へでる。雑木林から、田園が広がる集落と揖保川がちらちらと見える。「断崖絶壁危険・ハチの巣あり」の標示板を見たが、私たちのコースではなくほっとする。459mの道標付近からは、昨年の豪雨の影響か、いたるところ道をふさいだと思える倒木の伐採がされている。最近と思われるバームクーヘンのような木片が、あちこちに見られる。

登山道が整備されていなければ、宮山の頂上着11:45は無理だったと思う。

木洩れ日のはるか向こうに重なる稜線を見つつ、ひたすら登って行くと山頂(606m)に着き昼食をとる。その先100mに金剛岩が登山道をふさぐかのような居座る。私の背丈の倍はあるいびつな直方体が風化した岩肌をみせる。

山本さんが立てかけられた丸太で、岩に登り、気持ち良さそうなバンザイ！

12:15 下山を開始。霜柱をバリバリ踏んできた往路に替わり、落ち葉が音をたてる復路。



おおいつくす落ち葉に道が隠され、その下の石に足が取られ気が抜けない。

分岐で迂回コースに進み、急勾配に張られたロープを、一人ひとり丁寧に下りる。頂上から一時間で野口神社に着く。きれいに清掃され、集落の人々が神事を伝承されている様を感じ癒される。

1:30 国道29号線にでて下山終了。バスで生谷(いぎだに)温泉へ。お風呂上り、TVで全国対抗男子駅伝のアンカー勝負を数人と応援する。ゴール手前で2位の兵庫がスパートを駆け、福島を制し優勝した。

このラストシーンは、宮山山行と共に思い出に残る。

そしてなによりも、大瀬・上田両リーダーのもと、皆さんと歩ける至福に感謝。

歩行習慣は、生活習慣病にかかりにくくなるという記事を読んだ。毎日、今より3000歩(約30分)増えることで、糖尿病・脳卒中・心筋梗塞などにかかる年間医療費が5.5%減らせるらしい。

まとまった歩数による恩恵を、山行から貰いましょう



井上(尚)

登っても登っても急な尾根、尾根・・・、それもスマートな幅30~40cmの箇所も！両側の眼下は、山崎町のパッチワーク模様と揖保川の絶景。アキレス腱を目いっぱい伸ばして1時間程登った頃には、両側は、杉や松などの木立がそそり立ち、さっきの絶景を覆ってしまっています。

昨年の災害で、幹が30~40cm以上もある木々が根こそぎ倒れていました。切り口もまだ生々しく通れるように整備されていて、感謝しながら、また自然の厳しさを痛感しました。

下りも同様、急勾配を滑るように周りの木を頼りに(立ってウンティをしている感じ)なんとか野口神社にたどり着きました。スリル満点の楽しい山行でした。

入会してまだ4ヵ月、聞きなれない”実粟50名山”の山々。今年は出来る限りいろんな山に挑戦したいという気持ちが湧いてきました。ハリキッテはいますが、体力がついていくかしら---

笠形山（ 扁妙の滝 ）

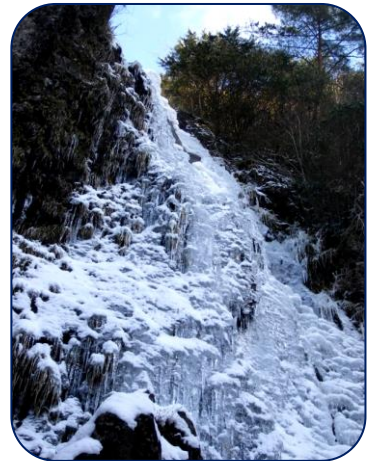
日 時：2月7日（日） 参加者数：27名

参 加 者：A班—L：上田利 SL：高橋(美) B班—L：山本(正一) SL：大瀬

A班：足立（美）・井上・大谷・貝塚(文)・貝塚(陽)
北村・塩津・長谷川(孝)・森川・山崎・渡邊(健)

B班：尾越・狩集・河合(信)・切貫・須増・砂川(延)
砂川（美）・開・待場・三木・和田・渡邊(俊)

行動記録：笠形山登山口9：30～大鳥居10：05～笠形
神社11：05～11：20～笠の丸12：05～
12：10～笠形山山頂12：45～13：15～
5合目14：10～14：20～滝見台14：50
～15：00～扁妙の滝15：10～15：20～
キャンプ場15：50～グリーンエコー笠形16：
20



★ 笠形山に登って

狩集

今回は、総勢27名の参加者となり、いつものバスより一回り大きい4人掛けのバスに乗り込み、イザ出発。お天気は快晴、播但連絡道路から見ると北の山々は雪で白く連なり、私たちが行く笠形山も、どんな具合だろうと心配になりました。

播但をおりると、登山口の瀬加まで、家の屋根や畑も雪景色になっていました。ストレッチ後にアイゼンをつけるように指示があり、初めてアイゼンをつけます。この山行の前日に、アイゼンをつけて滑りやすい山肌や岩での練習をした成果で、前後・左右間違いなく装着することが出来ました。登山口から、しばらくは木の葉混じりの雪を踏みしめて歩きましたが、笹の丸付近から雪質もサラサラとして、足を運ぶ度にキュッキュッと音がするので、子供のようにうれしくなりました。頂上に行くほど雪も深くなり、綿帽子も重そうに木々がお辞儀をして、その木に積もった雪が、パラパラと落ちてきました。

空気は澄み、空は青く、白銀の世界が広がって、別世界にいる心地でした。お昼は頂上で360度の展望、周りの山々も雪を頂き、瀬戸内海も見渡すことができました。

下山は、滑るのではないかと心配でしたが、アイゼンのおかげとストックを貸して頂いたので、なんとか降りることが出来ました。

クライマックス「扁妙の滝」は素晴らしかったです。どのように表現したらよいのか、滝見台から見た「扁妙の滝」も良かったけど、鉄の階段を下りて、滝の真下から見上げたら、自然のな

せる技に驚嘆し、荘厳な雰囲気を感じました。以前、夏に来た時に、「凍った滝が素晴らしい。」と聞いていましたが、なるほど納得です。いつまでも見ていたくて立ち去りがたい気持ちでした。

前回、笠形山に登ったのは今年の



残暑きびしい8月23日でした。高御位山遊会に入会して間もない私にとって、山遊会での初めての山行で楽しみにしていました。

いつも登る時は苦しいのですが、この時は体調が悪かったのか、いつもの苦しさとは違う感じで、息が切れて、かなりしんどかったです。最初の休憩の笠形神社に入った所で休んでいると皆が心配して色々と言ってくださいました。大瀬さんが荷物を持って下さり、切貫さんが、水をこまめに飲むことや、息の整え方を教えて下さり、上田さんや大谷さんが、「リュックが体に合っていないよ。」と直してくださったり、皆さんの温かさや優しさに感動しました。励ましのおかげで、その後は、ついて行くことが出来ました。あの節は、ありがとうございました。感謝しております。

また、会計を仰せつかったのに、私が現金をしっかりと管理していなかったせいで、皆さんに迷惑をかけて、申し訳ありませんでした。

そう云うわけで、良い思い出のない笠形山ですが、今回もう1度登って、リベンジしたかったのです。願いが叶って、とても嬉しいです。空気は澄み、お天気も良くて、絶好の山行日和でした。素晴らしい滝も見られて、お風呂に入り、ゆっくりと手足を伸ばし疲れも吹っ飛び、元気をもらいました。

足元が滑りやすい雪の状況の中、事故なく帰ってこられた事がなによりでした。

楽しい1日を過ごさせて頂き、リーダーをはじめ、お世話くださった方々に、お礼を申し上げます。



貝塚(陽)

神河町に入ると雪景色、大鳥居の駐車場でストレッチを行い、積雪の中でアイゼンを装着、不慣れで少し時間がかかり出発、途中厳しい丸太の階段、アップダウンの繰り返し、やっとの思いで頂上に着きました。山頂は天気もよく、360度の展望が開け、瀬戸内海や播州高原の山々が見える。各コースからも多くのハイカー達が集まっていました。

昼食後、扁妙の滝(落差65m)へ。

滝見台から滝全体を眺め、滝壺に下り滝口を見上げると大きなツララの芸術、初めてなので大変感動しました。このツララに日が当たれば、どのくらい綺麗か見てみたいと思いました。アイゼンを装着しての歩行は大変疲れました。滝の氷結の芸術を見て、記念すべき思い出になりました。

ネパールからの報告（４）

★ ネパールのお祭りと青空市

砂川(延)

１０月１７日（土）ナムチェに着いた日は、ネパールの国民的なお祭り「ダサイン」の初日であった。「ダサイン」とは１０という意味で、１０日間お祭りが続くことから、そう呼ばれているようである。たまたまの偶然から、お祭りの初日にナムチェに入ることになったわけである。

私たちは、どちらか云うとナムチェで土曜日曜に開かれる青空市が見たくて、土曜日のナムチェに照準を合せていた。そのため前日は、頑張って歩きモンジョのロッジに泊った。

この青空市は、街の入口にある高台の階段状になった広場で、主に野菜・果物・香辛料・



生のヤク肉等を露店に並べて商売をしている。商人は近郊の村から担いできた品々を並べている。通路は品物であふれており、ナムチェの人々から観光客、我々のようなトレッカーで、足の踏み場もないくらいの混雑である。この市場ではヤク肉の売り場が圧巻である。

ヤク肉の売り場だけは露店でなく、一番上にある倉庫のような建物の中で、ヤクの背中から縦に大きく半割にした肉や、太股の片側丸のままの肉などが、天井から鉤で吊るされて売られている。このヤク肉も、以前は露店に並べて売られていたようである。

午前中にナムチェに入ったので、かつて街の広場で開かれていた、もう一つの盛大な雑貨市を見たいのと、その側の河で洗濯をするために広場に下りて行った。

この雑貨市が、どうなっていたかと言うと、かつての賑わいは消えていた。それは中国との国境を閉鎖しているからだそう。

広場に設営したテントや地べたに並べられている品物は、靴(主に運動靴)・他には雑多な衣類・食べ物などである。しかし、中国の国内問題として、昨年起きたチベット騒乱のことが大きく影響し、国境が閉鎖されているため、チベット商人や中国からの商人が出店していないからである。

前回来た時は、本当に広場いっぱい所狭しとあった露店に、大勢の人々が群れていた。見て回るだけで楽しかったが、そういう状況からは、比べようもない寂れようである。

その広場の側を流れている小さな小川に、石で囲われた洗濯場がある。地元の女性たちに交じって、我々も、冷たい流水で下着類の洗濯をする。水は本当に手が切れそうに冷たい夕ぐれ時でもあって、洗濯して絞ったものを石垣に並べていると、短時間にカチカチに凍てはじめ固く突っ張っている。

洗濯から宿泊のロッジに帰ると、玄関前の広場に大勢の若者やちびっ子たちが、太鼓を叩きながら歌い踊っている。「ダサイン」祭りの初日で、ナムチェの街の店々や、ロッジを巡って、歌と踊りを披露して、寸志を集めて回っているのだ。

ガイドのナワンの話だと、歌と踊りを披露している若者や子どもはライ族でシェルパ族ではないとのこと。シェルパ族は誇りが高く、店々を回って寸志を集めるようなことはしないのだそう。

ナムチェの地名は、元来シェルパ族の村を意味しているようで、村の土地や建物は本来シェルパ族のもので、町のみやげ物店・飲食店などを経営している人々の中には、シェルパ族から土地や建物を借りている他民族が多いとか。ナムチェの村も、徐々に多民族化している現状を垣間見た。

冬山教室 ・ ・ 第一回

日 時：2月13日（土） 参加者：砂川(延)・尾越・高橋・松下

★ アイゼン・トレーニング

尾越

六甲ロックガーデン、地獄谷でのアイゼントレに参加しました。
地獄谷は二度目ですが、メンバーを見れば私が足を引っ張るのは一目瞭然と思いつつも、なぜか楽しみで、10本のアイゼンと新しい登山靴を用意し、ピッケル・ハーネス類は持っていないので、代わりのストック・シュリングセットをリュックに入れ、高座の滝に向かって歩きました。

現場では会長さんと松下さんがハーネスを付け、何本ものロープ・カラビナ・ヘルメット・ピッケルの完全装備で。

♪・雪よ岩よ、われらが宿り・♪と、山男の雪山賛歌が聞こえてきそうな状況を目にし、ああ〜重うと、さらに細る思いでした。

今回のトレーニングでは、アイゼンや登山靴を信頼し、岩を登る時も足幅は狭く山歩きの基本が大切なことを再確認し、久しぶりの良いお天気で、ピラーロックからの景色が綺麗に見え感激しました。

冬 山 教 室

🌈 座学

- ① 2月16日（火）19:00～
 - ・日程と山行のミーティング
 - ・冬山の装備
- ② 3月 2日（火）19:00～
 - ・雪上生活技術
- ③ 3月17日（水）19:00～
 - ・雪上技術
- ④ 3月30日（火）19:00～
 - ・冬山の気象、冬山の医療
- ⑤ 4月 6日（火）19:00～
 - ・雪崩、遭難対策

🌈 実技

- ① 2月13日（土）
 - ・アイゼントレ
 - ・ロックガーデン地獄谷
- ② 2月27日（土）～3月 1日（月）
 - ・八ヶ岳・蓼科山（アイゼン歩行）
- ③ 3月22日（月、祝）
 - ・氷ノ山 or 三室山（テント泊の設営）
- ④ 5月3日（月、祝）～5日（水、祝）
 - ・春山（八ヶ岳 or 乗鞍岳 or 御岳）

会員だより

足立(美)

先日、登りたい登りたいで、意を決して高御位山へ一人登山に。一人登山 3 度目の大冒険です。なんと「馬の背登山口」から登り「山頂」でターン、「百間岩」を降るコースです。スタートが遅れて 12 時半。ここは下れはしないだろうと陰しさと驚きの馬の背、山頂の随分手前で早々とお弁当。何とか山頂からターン。「馬の背」との分岐を越えて 3 時過ぎ、急に人数が少なくなり本当にこの道でいいのか？と急に不安になる。高御位山遊会では、リーダーや皆さんに頼っていて全体の景色が定かでない。

「こんなところだったかな？迷ってたら日暮れになる・・・。」鷹巣崖辺り？で駿足の女性が背後から、立止まって道を訊ねると間違いなさそう。後姿を見失わないようにと思うがあっさりと見失う。百間岩は、いっそう陰しく感じ「いつもと違う方向に降りたのでは？」と不安になる。すると半円形の展望台が見え、先ほどの女性の後姿が遠くに見えて安堵。階段状の道を進むと神社の赤い鳥居が見えてゴール！！

ある日の私の大冒険でした。

足立(光)

必然の反対語は偶然であるが、精神世界に於いてはむしろ盲目と言い換えた方が妥当ではないだろうか。

人の行為には意識、無意識を問わず必ず動機が在り、その結果として行為が存在する。

運動的に認識し得る領域のみに限らず、思考的、感覚的な領域も然りである。この意味に於いて人の行為（反応）の深度は、どれ程の必然が動機に内含されているかで決定されると言えよう。

人が風景を見て美しいと感じる時、言い換えるなら、美しいと思わせるに至らしめた動機は何なのかと言う所が重要であると考える。

灰色の空の下、寒風に揺れる黒々とした枯れ木の姿、或いは陽だまりの中で風にそよぐ一輪の野草、それらを目にした時、感覚が反応し、あたかも聴きなれた音楽を耳にしている様に、その空間に埋没していく。

個人の内面世界に於いて、これは単に視覚的、映像的に捉えられた要素ではなく、風景を借りた精神世界の具現化である。この時、決して偶然にその精神世界が展開してきたのではなく、生きてきた過去の全ての要因が土台となり必然的に現れた物である。この意味に於いて、冒頭、必然的展開が無い状況を盲目と表現したのである。

但し、これは個人の努力、能力とはある種無関係なものである。人は生まれ出る時、時間、空間を選ぶことはできない。又、好む好まざるに係わらず、否応なしに置かれてしまう状況もある。

私は、戦後日本が復興を遂げ始めた頃の生まれであるが、戦中、不幸にして南方諸島他、玉砕戦を遂行せざる得なかった方々は生死の掛った、いや恐らくはそれ以上の極限状態を経験されてこられた事と思う。

この方々に観えている物と、私が見ている物は、同じ対象であっても異なっている。要するに深度の問題である。肉体的にしろ、精神的にしろ極限状態を経験してきた人間にしか到達しえない領域と言うものがある。ただそれがその人にとって幸福な事とは思わないが。

雑記的に書き進めたが、これまで漠然と思っていた事柄を会員だよりを機に文章にしてみた。一度文章にしてしまうと形として残り、しかも会報に掲載されているので、今後この作文の内容について私自身が継続的に思考し、より内容を掘り下げる作業を続けるであろう効果を期待している。